

## 令和2年度 学生による地域フィールドワーク研究助成事業

### 研究成果報告書

- ・機関及び学部、学科等名：富山福祉短期大学 幼児教育学科
- ・所属ゼミ：藤井ゼミ(自然保育)
- ・指導教員：藤井 徳子
- ・代表学生：豊岡 安彩菜
- ・参加学生：今井 玲奈

#### 【研究題目】新しい地域づくり～『教育と体験型観光』による地域ブランディング～

#### 1. 課題解決策の要約

富山県南砺市利賀村は、富山県南西部、岐阜県との県境に位置する人口 500 人ほどの小さな郷である。標高 1000m を越える山々に囲まれ、利賀川と百瀬川の二つの清流が流れる村内には、豊かな自然が多く残されている。その利賀では、**過疎化と環境保全**という地域課題に対して、南砺利賀みらい留学や TOGA 森の大学など、利賀の良さを活かした取り組みが実施されている。また毎年2月に開催されるそば祭りは雪像や花火ショーなど 1 万 5 千人もの来場者がある一大イベントとなっている。藤井ゼミでも 2018 年から利賀での産学民連携プロジェクトに参画し、利賀ささゆり保育園の園外プログラム開発や地域住民と大学生参加のワールドカフェ『利賀の自然、子ども、未来』開催など、教育×自然というアプローチで成果を挙げているところである。一方で、このような**利賀地域の魅力をどのように地域内外へ情報発信していくのか**ということが継続的な課題となっている。これらの課題を解決するためには、従来からある「お客さん型」のお祭りやイベントではなく、「不便」「自然しかない」ことが魅力と感じられるような体験機会や、新たな価値観の見える化が必要である。またそこに、「子ども」というキーワードと保育や教育といったアプローチを加えれば、子育て世代にさらにアピールできるのではないかと考えられる。

#### 2. 調査研究の目的

TOGA 森の大学校は 2016 年に構想が始まり、2020 年に正式に開校したばかりの学校である。山で暮らす知恵と技術を伝え、山で生きる人材の育成を目指している。また、地域の森林管理や森林活用も検討するなど、森に囲まれた利賀ならではの学びの場となっている。今年度は全国から集まった9名の学生や社会人が受講している。このような TOGA 森の大学校構想は、過疎とそれに伴う林業や環境保全の担い手不足を同時に解決できる可能性を持っている。そこで本研究では、**TOGA 森の大学校に子どもやファミリーを対象とした親子プログラムを開発することと、TOGA 森の大学校の魅力を全国に発信することを目的とする。**

#### 3. 調査研究の方法

##### 3. 1. 親子自然体験プログラム「イグルーづくりと樹液カフェ」

利賀といえば豪雪と豊かな森林である。このような大自然をフルに活かし、利賀でしか体験できないプログラムとして、「イグルーづくりと樹液カフェ」の実施を目指した。イグルーというのは、雪のブロックをドーム状に積む雪の家である。イグルーメーカーを使うと、直径 2m 高さ 2m くらいのイグルーなら、大人 2～3 名で 3 時間くらいあれば作れる。3～4 組の家族で作れば、子ど



図 1. イグルー

もたちも一緒に楽しめて、適宜休憩も取りながら、半日くらいの楽しい親子活動になる。大人だけの活動としてももちろん楽しめる。

樹液カフェは、白銀の雪山をハイキングして、カエデやクルミの樹液を飲み比べするというものである(図2)(図3)。TOGA 森の大学校事務局を担っている(一社)moribio 森の暮らし研究所では、利賀の森のイタヤカエデの樹液を利用したシロップの商品開発に取り組んでいる。いくつかの樹に樹液採取専用の蛇口が取り付けられていて、蛇口をひねるとホースを通して樹液が出てくる仕組みになっている。この蛇口は、カナダでメイプルシロップ採取用として販売されているものだそうだ。樹液は採取する時期によって風味や採れる量が異なり、2月が一番美味しいとのことだった。こうして「イグルーづくりと樹液カフェ」という、まさに日本中でここ利賀でしか体験できない楽しい美味しいプログラムをデザインした。



図 2. 樹液を飲む

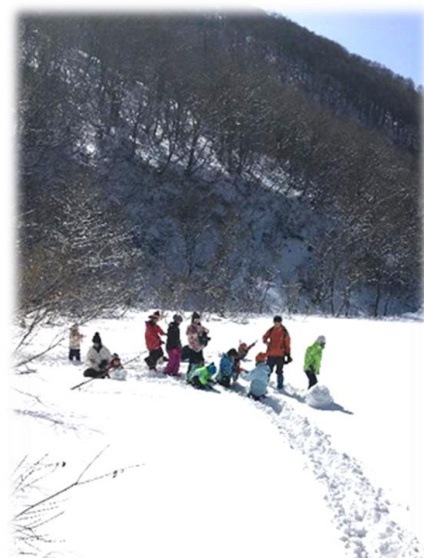


図 3. 雪山ハイキング

### 3. 2. TOGA 森の大学校の魅力発信

地域内外への情報発信という課題への解決策として、TOGA 森の大学校の魅力をたくさんの人に知ってもらうために、動画を作成・配信し、紹介ブックを編集・発行することとした。

動画は動画編集ソフト PowerDirector を使い、TOGA 森の大学校で提供いただいた写真や映像の中から素材を選んで編集した。紹介ブックは、AtoZ という手法を活用して作成した。これは、一つの対象に多面的に光を当て深く掘り下げて、地域・人・モノ、コトなどの魅力を可視化し、新たな視点を得たり再発見したりできるツールとして、福知山公立大学の塩見直紀先生が提案されている手法である。大きさはCDジャケットサイズ、全 16 ページ。制作費が手ごろで、手にとっても可愛いサイズ感となっているので、「名刺代わりに1冊！」と贈っても贈られても嬉しいミニブックである。

## 4. 調査研究の成果

主なフィールドワークは以下の通りである。

	月日	内容
1	5月19日	南砺市エコビレッジ推進課 SDGs 推進係と会合 学生による TOGA 森の大学校活性化プラン提案
2	8月30日	第1回 TOGA 森の大学校ブランディング オンライン会議
3	9月25日	第2回 TOGA 森の大学校ブランディング オンライン会議
4	11月1日	TOGA 森の大学校開校記念式
5	11月29日	TOGA 森の大学校「森の暮らし塾第7回」体験参加
6	12月14日	TOGA 森の大学校訪問取材
7	1月23日	イグルーづくり&樹液カフェリハーサル(中止)
8	2月20日	イグルーづくり&樹液カフェ(中止)

年度当初から新型コロナウイルスの影響によりフィールドワークはずっと苦戦してきた。そのような中で、南砺市エコビレッジ推進課 SDGs推進係の方々に私たちの提案書を見ていただいたり、オンライン会議で東京など他大学生と繋がってアイデアを出し合ったり、利賀に取材に行くことができたことは貴重な機会であった。親子自然体験プログラム「イグルーづくりと樹液カフェ」は表1のような活動案を予定して準備を進めていたが、残念ながら新型コロナウイルス感染が収束せず中止となった。

表1. 「雪の家イグルーをつくろう！」活動案

活動場所: 利賀創造交流館

(活動時間 12時30分～16時 途中適宜休憩)

配時	準備物	活動	援助・留意点
12:30	Igloomaker3 焚き火台 3 薪 着火剤	○集合 ・参加者自己紹介 ・アイスブレイク	・トイレや防寒の備えができていないか 声かけ確認する
12:40		○イグルーの作り方を聞く ・参加者を家族ごとに3グループに分ける ・諸注意 ・焚き火台設置	・学生は1グループに1人つき、子どもたちの活動を援助する ・子どもだけで活動場所から離れないよう気をつける
12:55		○イグルーを作る  ・適宜、おやつタイムを挟んで休憩する	・保護者も我が子がどこで何をしているか適宜目配りするよう確認する ・子どもたちが自由に好きな遊びができるよう、学生スタッフがサポートする ・焚き火の火に気をつける ・活動場所を離れるときは、グループリーダーに必ず告げてもらう ・仕上がりが遅いグループには、スタッフが加わり、グループによって大きく時間差がでないようにする
16:00		○イグルー審査会 表彰式 ★最速ビルド賞 ★一番美しいで賞 ★チームワーク賞  ・集合写真	・校長より表彰 ・寒さ対策として、ふりかえりは、片付けを終えてから室内で行う

ZOOMによるオンライン会議では、利賀・富山・東京をつなぎ、社会人や他大学生も参加してミーティングを2回開催した。昨年 TOGA 森の大学校に参加した高崎経済大学のNさんや、富山大学大学院で森林植生について学びながら今年度 TOGA 森の大学校に入学したKさんなどが参加してくださり、いろいろな事例やアイデアを出し合うことができた。Nさんが大学のゼミで環境カードゲームを開発したという事例を

紹介してくれたところから、利賀の森林カードゲームを思いつき、今、商品開発にむけて動きだしている。また、「利賀のスイーツやお土産がまだない」という地元の方の話から、利賀特産のクロモジ茶やかぼちゃ、そばを使った料理やスイーツを開発して、南砺市のキッチンカーで販売しようというアイデアも出た。

11月1日には TOGA 森の大学校開校記念式が開催された。TOGA 森の大学校の受講生が一人ずつ、TOGA 森の大学校に入学しようと思った動機や、これからの夢などを語っていて、とても伝わるものがあった。

TOGA 森の大学校では毎月1回、2泊3日のプログラム「森の暮らし塾」を実施している。11月29日開催の森の暮らし塾第7回のテーマは「狩猟～けもの道の歩き方」。この3日目のプログラムに体験参加させていただいた。ジビエ界をリードする大長谷ハンターズジビエ代表の石黒木太郎氏に解体施設を見学させてもらい、タイミングよく駆除されたクマの解体の一部を見せていただくこともできた。フィールド観察では、大長谷の21世紀の森へ入り、わな猟を実際に仕掛けてみたり、猟師目線で山を歩いたりした。昼食はクマカレーと山菜ジビエピザで、山の恵みと命をありがたういただくことができた。

動画は、今年度の TOGA 森の大学校の活動写真および映像を編集して作成した。膨大な写真データを一つ一つ確認し、森の大学校の開校記念式で受講生が発表している映像を何度も見返さなければならぬ編集作業は大変ではあったものの、受講生やそこに携わる人たちの思いや利賀の魅力が非常に伝わってきて、私たちにとっても TOGA 森の大学校の意義を再認識できる時間であった。

## 5. 調査研究に基づく提言

今回私たちは、「過疎化」「環境保全」「情報発信」という利賀地域の課題解決策として、TOGA 森の大学校の親子自然体験プログラム開発と、TOGA 森の大学校の紹介動画作成および AtoZ ブック発行に取り組んだ。県内外の学生たちから挙がった利賀の商品開発へのアイデアとして「利賀森林カードゲーム」「森林ボードゲーム」「伯爵かぼちゃスイーツ」などは、ぜひ今後も検討を続けてほしい。また、動画や AtoZ ブックによって全国の人たちに利賀の魅力が伝わることを願っている。新型コロナウイルス感染が収束したら、ぜひ利賀に遊びに来ていただきたい。冬にはイグルーと樹液カフェも楽しんでもらいたい。

またイグルーづくりは、雪遊びというだけでなく、チームビルディングとしてもとても有効な体験活動なので、利賀にかぎらず、雪のある地域なら、保育園、幼稚園、小中学校などさまざまな場で楽しんでみていただきたい。

## 6. 課題解決策の自己評価

本研究事業はコロナ禍に始まり、フィールドワークはずっと苦戦してきた。そんな中でも、私たち学生のアイデアや提案を行政の方に聞いていただけたことはとても嬉しいことだった。またオンラインで利賀・東京・富山を繋ぎ、他大学生と一緒に利賀地域の魅力発信について協議できたことは、コロナ対策として手軽にリモート会議ができるようになった恩恵を実感できた。このように、日本だけでなく世界中の人たちとも繋がって、話し合いアイデアを出し合うことができれば、社会をつくりかえていくことができるのではないかとイメージできたことは、私たちにとって非常に大きな学びであったと考える。

## 7. 謝辞

本研究事業では、TOGA 森の大学校、南砺市エコビレッジ推進課 SDGs 推進係に、取材や資料提供など大変ご協力いただきました。オンライン会議に参加してくれた他大学の学生たちからは、たくさんのアイデアと刺激をいただきました。また富山福祉短期大学中村尚紀先生には動画の編集技術についてアドバイスをいただきました。どうもありがとうございました。